

ASUKA

CLUB MAGAZINE



- Special 2つのグランドクルーズ 初航海へのカウントダウン
- Special 辻村深月 Interview 渡辺真知子 Collection 機関部 カジノ Foodie 濑戸内ビュッフェ

夢は
もなく、
あなたと
海へ。



My ASUKA CLUB

ASUKA CLUB MAGAZINE

NO.111

Summer 2025

発行／郵船クルーズ株式会社 My ASUKA CLUB事務局
〒220-8147 横浜市西区みなとみらい2-21 横浜ランドマークタワー47階 TEL 0156405302
ホームページ <https://www.asukacruise.co.jp>



My ASUKA CLUBへ
ようこそ！
お楽しみコンテンツも
いろいろ

投票結果に興味津々！

#飛鳥VOTE

皆様の投票が集計されて
結果を発表。
ちなみに
「幻想的なアジアの夜景対決！」では
僅差で「九份（台湾）」がトップに！
「みんなは？」「私だったら」
思いを巡らす楽しいコンテンツです。



キャプテンの裏話も！

#飛鳥FOUCS

例えば、
お客様の乗船日と下船日に船を飾る
「満船飾」のいわれを
キャプテンが語るなど、
スタッフの声や裏話、
飛鳥クルーズをとりまく様々なものに
焦点を当ててご紹介するコンテンツです。

客船余話 第1回 大さん橋にたなびく満船飾

「客船余話」はMy ASUKA CLUB会長を務める中村キャプテンの視点で客船の世界をご紹介する、ちょっぴりマニアックな不定期エッセイです



アクセスは
こちら！

パソコンの場合は
飛鳥クルーズのホームページから
→ マイアスカクラブ 検索
<https://myac.asukacruise.co.jp>

二次元コードから
My ASUKA CLUBに
アクセス！ →



A My ASUKA CLUB

会員の皆様の
パーソナルなホームページ
My ASUKA CLUB。
デジタルご優待割引券や船上クーポン、
予約や乗船履歴の確認などお得な、
そして役立つ情報がたくさん。
今回はトピックスや投票企画など、
会員様向けのお楽しみコンテンツをご紹介します。
ぜひ、アクセスしてご覧ください！



Special Feature 1

2つのグランドクルーズ

東へ西へ

4

8

地上の食卓と、船の教室
辻村深月

Asuka Cruise Interview ⑩

渡辺真知子さん

10

もっと知りたい飛鳥のこと ⑩

機関部

Special Feature 2

飛鳥Ⅲ

初航海へのカウントダウン

14

夢はまもなく、
あなたと海へ



飛鳥の美しいかたち⑩

カジノ♣モンテカルロ — 18

20 — 寄港地のいちおし

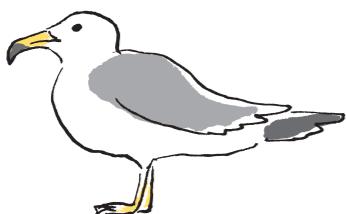
ASUKA WALKING & RUNNING CLUB — 21

工房を訪ね⑦

22 — 雨宮弥太郎

美食遊覧⑩

瀬戸内ビュッフェ — 24



Welcome Aboard — 26

ASUKAⅢ NEWS — 28

Cruise Desk — 29

Club Information — 30



Yuji Nishijima

新社長就任のご挨拶

My ASUKA CLUB会員の皆様、

日頃より飛鳥クルーズをご愛顧くださり、誠に有難うございます。

6月に郵船クルーズ株式会社第9代社長に就任いたしました西島裕司でございます。

誌面を借りて皆様にご挨拶申し上げます。

1991年に初代「飛鳥」が就航して以来、初めて“2隻での飛鳥クルーズ”を
皆様にご披露できることに、心躍る思いでございます。

ここに至ることが出来ましたのも、My ASUKA CLUB会員の皆様をはじめとする
お客様の温かいご支援の賜物と、深く感謝申し上げます。

「飛鳥Ⅱ」、「飛鳥Ⅲ」とともに、これまで培って参りましたおもてなしの心を更に高めつつ、
それぞれの特長を活かし、お客様により多彩なクルーズをご提供して参ります。

2隻で“幸を編む”ことで、より大きな“至福の船旅”を創出してゆきたいと考えておりますので、
引き続き飛鳥クルーズをよろしくお願い申し上げます。

皆様のご乗船を、両船乗組員と社員一同、楽しみにお待ちしております。

郵船クルーズ株式会社 代表取締役社長 西島 裕司



「飛鳥Ⅲ」船長就任のご挨拶

My ASUKA CLUB会員の皆様、

このたび「飛鳥Ⅲ」の船長に就任いたしました

飛鳥クルーズ第11代船長の小久江 尚です。

私は1996年に日本郵船の当時のグループ会社だった

クリスタルクルーズ社の「クリスタル・ハーモニー（現「飛鳥Ⅱ」）」に乗船以降、
「クリスタル・シンフォニー」、「クリスタル・セレニティー」に9年間、

そして2008年からは「飛鳥Ⅱ」一等航海士、2009年から副船長、

2014年12月からは「飛鳥Ⅱ」の6代目船長として

16年間にわたり「飛鳥Ⅱ」に携わらせていただきました。

そしてこの度、我社にとって34年ぶりに就航する

新造客船「飛鳥Ⅲ」の初代船長として再び飛鳥クルーズの魅力を

皆様へお届けができることができる機会をいただき大変光栄に思っております。

「飛鳥Ⅲ」は多彩な選択肢を揃え、あらゆる世代とニーズに応えるサービスを提供していきます。

「飛鳥Ⅱ」とはまた異なった環境の空間で、

皆様それぞれのクルーズライフを思いのままにお過ごし頂ければと思います。

皆様にとって馴染みのある「飛鳥Ⅱ」の乗組員に加え、

新しい乗組員を迎えた新メンバーにて、

「飛鳥Ⅱ」同様に皆様の心に刻まれる「最幸時間」を求めて未来への航海へと船出します。

「飛鳥Ⅲ」同様「飛鳥Ⅲ」を、

そして飛鳥クルーズを引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

飛鳥クルーズ第11代船長 小久江 尚

～「飛鳥Ⅱ」就航20周年記念～

2026年
アジアグランド
クルーズ

横浜発着

2026年1月15日～2月19日

神戸発着

2026年1月16日～2月18日

1/15	横浜	日本
1/16	神戸	日本
1/19・20	基隆	台湾
1/23	マニラ	フィリピン
1/25	ボラカイ島 鐘泊【初寄港】	フィリピン
1/27	コタキナバル	マレーシア
1/30	シンガポール	シンガポール
2/2・3	レムチャバン	タイ
2/6	ホーチミン	ベトナム
2/9	ハロン湾 鐘泊	ベトナム
2/12・13	香港	中国
2/18	神戸	日本
2/19	横浜	日本

GO EAST

to ASIA

Grand
Cruise

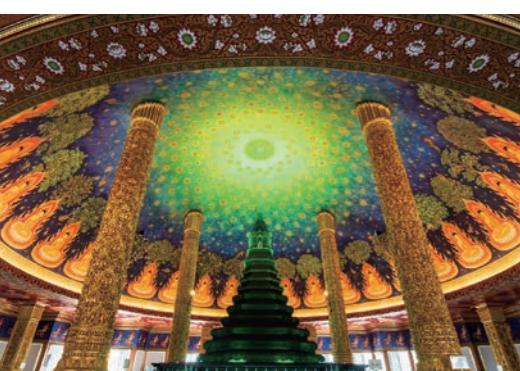
My ASUKA CLUB会員グランド特別割引

2025年7月31日(木)までに全額お支払いのお客様は旅行代金が25%割引

My ASUKA CLUB会員早期全額支払割引

2025年9月30日(火)までに全額お支払いのお客様は旅行代金が20%割引

※詳しい旅行代金、区間乗船については、ホームページをご覧ください

バンコクのワットパクナム
アートのようなブッダの生涯図は
息をのむほどの美しさ

シクロに乗って街をゆくと
どこか懐かしい風景がすぎていく
生活のリズムが聞こえてくる



街の活気も静まって
「暁の寺」ワットアルンが
美しい夕陽に染まる

2つの

グランドクルーズ
東へ西へ

特集1

2026年「飛鳥Ⅱ」は2つの対照的な
グランドクルーズへ出航します。東は色彩あふれるアジアへ、
西は大自然のアラスカ・ハワイへ。
どちらも飛鳥クルーズならではの
魅力がたっぷりとつまった
グランドクルーズです。

小籠包づくりにも挑戦



ハロン湾をクルージング

赤い水を意味するワイメア
「太平洋のグランドキャニオン」は
途方もない時間が刻んだ彫刻



Grand
Cruise

GO WEST

to ALASKA & HAWAII

速報!

Cruise Information

2026年
アラスカ・ハワイ
グランドクルーズ

横浜発着 2026年4月24日～6月8日

4/24	横浜	日本
5/5	コディアック【初寄港】	アメリカ
5/6	(カレッジフィヨルド)	
5/7	(ハバード氷河)	
5/8	ジュノー	アメリカ
5/9	スキヤグウェイ	アメリカ
5/11	ケチカン	アメリカ
5/13	ビクトリア	カナダ
5/14	シアトル【初寄港】	アメリカ
5/17・18	サンフランシスコ	アメリカ
5/24	コナ／ハワイ島【初寄港】	アメリカ
5/26	ナウイリウイリ／カウアイ島	アメリカ
5/27	カフルイ／マウイ島【初寄港】	アメリカ
5/28・29	ホノルル／オアフ島	アメリカ
6/8	横浜	日本



やっぽりここは楽園
ホノルルはいつだって、誰だって
自然と笑顔になる

Hawaii Tourism Authority

※詳しい旅行代金、区間乗船については、
ホームページをご覧ください。



切り立った緑の絶壁に
氷河が青白く光るカレッジフィヨルド
静寂の中で、ただ息をのむ



サーモン漁で活きづく
アラスカの港町、ケチカン
シーフードを楽しもう



水しぶきを上げ
氷河が崩れる時、聞こえるのは
ホワイトサンダー

大自然の アラスカ・ハワイへ

2つ目のグランドクルーズは、
7年ぶりに氷河のアラスカと樂
園のハワイ4島を結ぶ夢の太平
洋航路です。世界一周クルーズ
でも人気のエリア、アラスカと
ハワイの両方を1つのクルーズ
で巡ります。迫力のカレッジフィ
ヨルドやハバード氷河をたっぷ
りと船上から見学した後は、カ
ナダのビクトリアへと向かいま
す。アラスカの氷河をさらに樂
しめる寄港地観光ツアーとして、
上空の遊覧飛行も予定していま
す。氷河はもちろん、海洋生物
との出会いも楽しみなクルーズ
グランドクルーズです。

地

上

の

食

上

と

船上の教室

文 辻村深月

Mizuki Tsujimura

ツジムラ・ミヅキ／山梨県出身。04年に『冷たい校舎の時は止まる』でメフィスト賞を受賞しデビュー。11年『ツナグ』で吉川英治文学新人賞、12年『鍵のない夢を見る』で直木賞、18年『かがみの孤城』で本屋大賞を受賞。その他『凍りのくじら』『ぼくのメジャースプーン』『傲慢と善良』『この夏の星を見る』など著書多数。



Illustration by Itaya Akiyama

一〇一二年秋、飛鳥Ⅱに乗船した。「船」を舞台にした小説を書くにあたっての取材だったのだが、その際、先方から思いがけず魅力的な申し出を受けた。せっかくだから、クルーズの最終日に講演会をしませんか、というものだ。

「講師」としてイベントの裏側も観るのはこちらとしては願つてもないことで、ぜひ、と二つ返事でお受けした。

その際、「講師」となったことで、飛鳥Ⅱがこれまでにも多彩な講師を招いて、ワークショップやセミナー、習い事や教室のイベントをしてきた実績があることを知った。なるほど、船の旅は長い。目的地に向かうだけではなく、「滞在すること」そのものが目的になる船旅では、そうした時間がとても楽しそうだ。

実は私が参加したクルーズでは、嬉しい出会いが待っていた。絵付け教室の講師として招かれていた陶芸作家の望月集さんが、偶然にも私が行きつけにしているレストランのオーナーご夫妻のお友達だということがわかり、出会う前から私は望月さんの作品である器にお店でショッちゅう親しんでいたことが判明。これも何かの縁だろうと、私も絵付け教室に参加させてもらつた。

とはいへ、私は絵心がまったくない。うまくできるだらうか、とドキドキしていると、先生が色鮮やかなシートをたくさんご用意して、待つていてくださつた。陶芸技法のひとつである「色絵」の絵の具で作られたシートを貼つていく絵付けは、素人の私でも挑戦しやすい。皆が楽しみながら、それぞれの個性が出たお皿がちゃんと完成させられるよう、短い時間の中で先生がちゃんと考えてくださつてることがよく伝わる教室だつた。隣り合う「生徒」たちが「その柄いいですね」とか、「上手！」と自然と声を掛け合つていく雰囲気もとてもよかつた。

絵付けを終えたお皿は、後日、先生の工房で焼かれたものが、地上の私の家に届けられた。
三日月の形に切り抜いた黄色いシールと、その下に貼つた飛鳥Ⅱのマーク。先生に教えてもらいながら色合いを重ねた柄たち。今も食卓に登場するたび、テーブルの向こうに船の時間がふつとつながり、その出会いに感謝する。

これまで何度も「飛鳥Ⅱ」に
ご乗船いただいている
ソングライターの渡辺真知子

辿り着いた港町で
見えてくる「飛鳥Ⅱ」
母の懐へと飛び込むそ

これまで何度も「飛鳥Ⅱ」に
ご乗船いただいている
シンガーソングライターの渡辺真知子さん。
ご自身の人生の節目とも
重なった初乗船や、
海外寄港地でのエピソードなど、
楽しいお話を伺いました。

初めての乗船は2008年
のA・s・t・y・l・e クルーズでした。その数年前に
両親を続けて亡くしていたり、ち
ょうど事務所も新しくなったり、
自分にとつても新たな船出という
か、大きな節目を迎えていた時期
でした。まだ喪失感もあつたはず
なのですが、お仕事をいただいた
時に、客船の上で歌えるなんて
「まだまだすてきなことが起きる
んだ！」と思つたことはおぼえています。もともと横須賀の海の近

くで育ちましたけれど、これだけスケールの大きな客船に身を任せて海をゆくだなんて、本当にわくわくしました。同時に、両親も乗せてあげたかったなあとか、いろいろな思いがよぎりましたね。

その後もいろいろなクルーズに乗船させてもらいました。一番感動したのは世界一周クルーズの最後に、アラスカのスワードから乗り込んだときです。私たちは日本からアンカレッジへ飛行機で向かい、空港からはバスでスワードま

道だというので飽きたかなと思つて、いたら、あまりの壮大さにびっくり。バスの座席を右に行つたり左に行つたりしながらメンバー全員で絶景に感動しつぱなしでした。そうやつて、辿り着いた先の外国の港に「飛鳥Ⅱ」が停泊しているのを見つけると、「ああ、帰ってきた」と、お母さんの懷に飛び込むような安心感がありますよね。きっと「飛鳥Ⅱ」はお客様にとっても、そういう船なのでしょうね。

ジアグランドクルーズで香港から乗船したことも忘れられません。いよいよ港という時、さあ船上から夜樂しむぞと期待していたら、なんだか方向が違う?と最初つたんです。ところが、わざに入つてUターンして両岸のを見せながら外洋に出るといふだつたのです。あの夜は「いい!」「きれい!」と皆で何発したことか。本当にすてき

な思い出です。今回のクルーズでは松山港から乗船しました。瀬戸内海は初めてですが、いつまで見ていても飽きない景色ですね。やはり船上のステージですから、海にまつわる曲も選んできました。中でも『二隻の舟』という曲は中島みゆきさんの「夜会」のテーマソングです。2019年の「夜会」にゲスト出演させていただいた際に歌わせてもらつた『カナリア』と『二隻の舟』の2曲を、デビュー45周年記念作品として2022年にリリースさせてもらいました。その『二隻の舟』は1曲で8分もあります。「夜会」でも必ず最後に歌われていて、人生のドラマを大海原をゆく2隻の船に例えたストーリー性のある壮大な曲です。船上でこの歌を聴きながらご自身の人生を振り返つていただけたらなと思ひます。

最近だんだん分かつてきましたけれど、我々のステージが必要なのは、クルーズで海が続くところが多いんですよね。太平洋のまつただ中とか。おかげさまで、他では経験できないような大自然を楽しませていただいていますが、いつか、次々と各国の港が続くようなそういう区間にも乗船してみたらいです。でも、やっぱりそれはプライベートでかな。

渡辺真知子さん



小舟が行き交う
初めての瀬戸内海
いつまで見ていても
泡立つな、景色



わたなべ まちこ／シンガーソングライター。1977年「迷い道」でデビュー。「かもめが翔んだ日」は日本レコード大賞最優秀新人賞他音楽祭12賞受賞。コンサート活動を精力的に続けており、オリジナルを中心にポップス・ジャズ・ラテン・クラシックなど、さまざまなジャンルをボーダレスに展開。国内はもとより、海外でもそのパフォーマンスに賞賛が寄せられる。

「爽秋の瀬戸内
九州・松山カルーズ」にて。

5台の発電機を持つ「飛鳥II」
船内の電気と水を生み出す
機関部に潜入しました

電気と水をつくる 「飛鳥II」の心臓 エンジン

「飛鳥II」は日本で建造された初めての電気推進の客船です。

4台の主発電機（メイン・ディーゼル・ジェネレーター・エンジン）と1台の補助発電機を備えています。重油で発電機を回して電気を作り、その電気が船尾にある左右2基のプロペラを回して船を前に進めます。常に4台の主発電機をフル稼働するわけではなく、船の速度や天候などに応じて必要な台数を動かして、船の推進はもちろん、船内の電力全てをまかなっています。

どのぐらいの発電能力があるかと、4台の発電機を稼働すると、なんと1万瓩（約2万1千キロワット）の一般家庭で使用される電力に相当します。港に停泊中の状態でも、電力は必要とされるので、常時2台の主発電機は動かしている

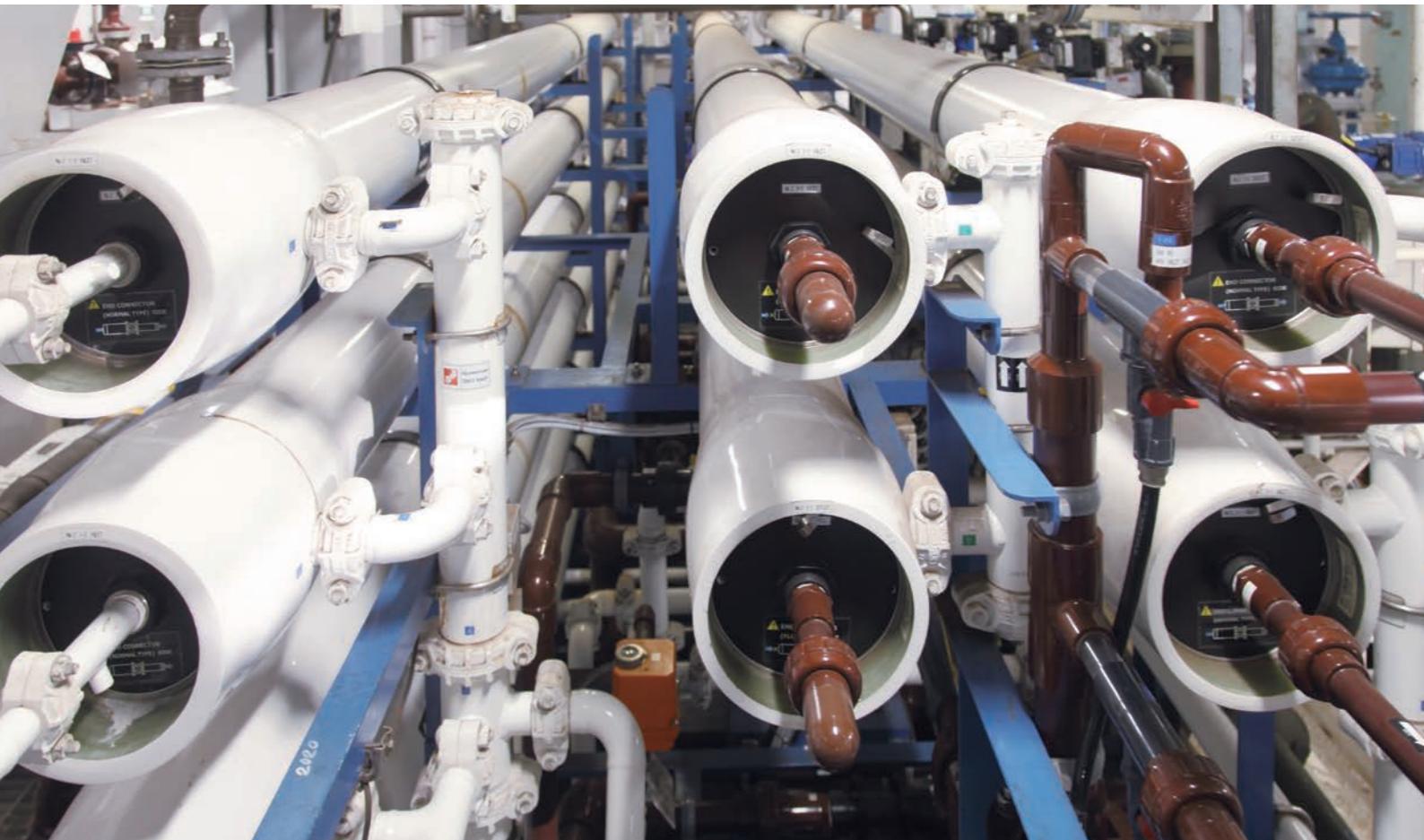
そうです。
そして、機関部のもう一つの大切な仕事は水を造ることです。以前は発電機の廃熱やボイラで作った蒸気を利用して海水を沸かし造水するシステムでしたが、2019年の改裝で造水器も新しくなりました。新しい造水器は4台あり、逆浸透膜の仕組みを利用して海水に高い圧力を（1センチ四方に60キロ）を加えて真水を造ります。そのままでは飲めないので、真水にミネラルを加えています。

「飛鳥II」ではキャビンの水栓から流れる水から、ギャレーで調理に使う水、プールやグランドスパの水、そして掃除や洗濯などに使われる水まで、1日に約600トンの水が必要とされます。造水器1台で1時間に約9トン造水することができます。

なども考慮して計画的に水の管理を行っています。
明るくきらめく照明、そして蛇口を開けばきれいなお水が流れます。当たり前と言えば当たり前のことです
が、電気と水は客船の生命線です。お客様に快適にお過ごしいただくため、エンジンの音と熱気に包まれて、約20人の機関士達が今日も頑に汗しながらがんばっています。

ますが、稼働できるのは航海中に限られます。航行スケジュールや海域によっては全てを造水でまかなうことができないので、岸壁での給水（補水）も必要になります。船内に水が貯められる清水タンクは1800トン。クルーズ中に水不足などということはあってはならないので、通常8割程度の貯水量をキープできるよう、先々のクルーズ日程や航路

筒状の部分に入った逆浸透膜に海水を通しています



推進モーターをチェック、
この右側（船外）にプロペラがあります

三等機関士

N. Ikemoto

造水器を担当しています。フィルターが詰まらないように、定期的にメンテナンスをしたり薬品洗浄を行っています。仕事に対する責任は常に感じています。メンテナンスから復旧させるときに手間取ると造水量にも影響してしまうので焦ります。同じ機械でも1台1台個性があるので、調子よく動いてくれるように愛情を込めて整備しています。

Profile

2024年から「飛鳥II」に乗船。前職の神戸・高松間のフェリーで勤務していた際「飛鳥II」を見かけ、日本最大の客船で働いてみたいと思ったのが転職のきっかけ。休暇中は飼い猫と遊んだり、料理などの家事を担当。得意料理はロールキャベツ。

photographs by Kazuhisa Natori

ます。航行スケジュールや海域によっては全てを造水でまかなうことができないので、岸壁での給水（補水）も必要になります。船内に水が貯められる清水タンクは1800トン。クルーズ中に水不足などということはあってはならないので、通常8割程度の貯水量をキープできるよう、先々のクルーズ日程や航路

なども考慮して計画的に水の管理を行っています。
明るくきらめく照明、そして蛇口を開けばきれいなお水が流れます。当たり前と言えば当たり前のことです
が、電気と水は客船の生命線です。お客様に快適にお過ごしいただくため、エンジンの音と熱気に包まれて、約20人の機関士達が今日も頑に汗しながらがんばっています。



今日の調子はどうかな?
造水器のメンテナンスは欠かせません

三等機関士

N. Ikemoto

造水器を担当しています。フィルターが詰まらないように、定期的にメンテナンスをしたり薬品洗浄を行っています。仕事に対する責任は常に感じています。メンテナンスから復旧させるときに手間取ると造水量にも影響してしまうので焦ります。同じ機械でも1台1台個性があるので、調子よく動いてくれるように愛情を込めて整備しています。

Profile

2024年から「飛鳥II」に乗船。前職の神戸・高松間のフェリーで勤務していた際「飛鳥II」を見かけ、日本最大の客船で働いてみたいと思ったのが転職のきっかけ。休暇中は飼い猫と遊んだり、料理などの家事を担当。得意料理はロールキャベツ。

photographs by Kazuhisa Natori

ます。航行スケジュールや海域によっては全てを造水でまかなうことができないので、岸壁での給水（補水）も必要になります。船内に水が貯められる清水タンクは1800トン。クルーズ中に水不足などということはあってはならないので、通常8割程度の貯水量をキープできるよう、先々のクルーズ日程や航路

なども考慮して計画的に水の管理を行っています。
明るくきらめく照明、そして蛇口を開けばきれいなお水が流れます。当たり前と言えば当たり前のことです
が、電気と水は客船の生命線です。お客様に快適にお過ごしいただくため、エンジンの音と熱気に包まれて、約20人の機関士達が今日も頑に汗しながらがんばっています。



今日の調子はどうかな?
造水器のメンテナンスは欠かせません

三等機関士

N. Ikemoto

造水器を担当しています。フィルターが詰まらないように、定期的にメンテナンスをしたり薬品洗浄を行っています。仕事に対する責任は常に感じています。メンテナンスから復旧させるときに手間取ると造水量にも影響してしまうので焦ります。同じ機械でも1台1台個性があるので、調子よく動いてくれるように愛情を込めて整備しています。

Profile

2024年から「飛鳥II」に乗船。前職の神戸・高松間のフェリーで勤務していた際「飛鳥II」を見かけ、日本最大の客船で働いてみたいと思ったのが転職のきっかけ。休暇中は飼い猫と遊んだり、料理などの家事を担当。得意料理はロールキャベツ。

photographs by Kazuhisa Natori

ます。航行スケジュールや海域によっては全てを造水でまかなうことができないので、岸壁での給水（補水）も必要になります。船内に水が貯められる清水タンクは1800トン。クルーズ中に水不足などと

なども考慮して計画的に水の管理を行っています。
明るくきらめく照明、そして蛇口を開けばきれいなお水が流れます。当たり前と言えば当たり前のことです
が、電気と水は客船の生命線です。お客様に快適にお過ごしいただくため、エンジンの音と熱気に包まれて、約20人の機関士達が今日も頑に汗しながらがんばっています。



今日の調子はどうかな?
造水器のメンテナンスは欠かせません

三等機関士

N. Ikemoto

造水器を担当しています。フィルターが詰まらないように、定期的にメンテナンスをしたり薬品洗浄を行っています。仕事に対する責任は常に感じています。メンテナンスから復旧させるときに手間取ると造水量にも影響してしまうので焦ります。同じ機械でも1台1台個性があるので、調子よく動いてくれるように愛情を込めて整備しています。

Profile

2024年から「飛鳥II」に乗船。前職の神戸・高松間のフェリーで勤務していた際「飛鳥II」を見かけ、日本最大の客船で働いてみたいと思ったのが転職のきっかけ。休暇中は飼い猫と遊んだり、料理などの家事を担当。得意料理はロールキャベツ。

photographs by Kazuhisa Natori

ます。航行スケジュールや海域によっては全てを造水でまかなうことができないので、岸壁での給水（補水）も必要になります。船内に水が貯められる清水タンクは1800トン。クルーズ中に水不足などと

なども考慮して計画的に水の管理を行っています。
明るくきらめく照明、そして蛇口を開けばきれいなお水が流れます。当たり前と言えば当たり前のことです
が、電気と水は客船の生命線です。お客様に快適にお過ごしいただくため、エンジンの音と熱気に包まれて、約20人の機関士達が今日も頑に汗しながらがんばっています。



今日の調子はどうかな?
造水器のメンテナンスは欠かせません

三等機関士

N. Ikemoto

造水器を担当しています。フィルターが詰まらないように、定期的にメンテナンスをしたり薬品洗浄を行っています。仕事に対する責任は常に感じています。メンテナンスから復旧させるときに手間取ると造水量にも影響してしまうので焦ります。同じ機械でも1台1台個性があるので、調子よく動いてくれるように愛情を込めて整備しています。

Profile

2024年から「飛鳥II」に乗船。前職の神戸・高松間のフェリーで勤務していた際「飛鳥II」を見かけ、日本最大の客船で働いてみたいと思ったのが転職のきっかけ。休暇中は飼い猫と遊んだり、料理などの家事を担当。得意料理はロールキャベツ。

photographs by Kazuhisa Natori

ます。航行スケジュールや海域によっては全てを造水でまかなうことができないので、岸壁での給水（補水）も必要になります。船内に水が貯められる清水タンクは1800トン。クルーズ中に水不足などと

なども考慮して計画的に水の管理を行っています。
明るくきらめく照明、そして蛇口を開けばきれいなお水が流れます。当たり前と言えば当たり前のことです
が、電気と水は客船の生命線です。お客様に快適にお過ごしいただくため、エンジンの音と熱気に包まれて、約20人の機関士達が今日も頑に汗しながらがんばっています。



今日の調子はどうかな?
造水器のメンテナンスは欠かせません

三等機関士

N. Ikemoto

造水器を担当しています。フィルターが詰まらないように、定期的にメンテナンスをしたり薬品洗浄を行っています。仕事に対する責任は常に感じています。メンテナンスから復旧させるときに手間取ると造水量にも影響してしまうので焦ります。同じ機械でも1台1台個性があるので、調子よく動いてくれるように愛情を込めて整備しています。

Profile

2024年から「飛鳥II」に乗船。前職の神戸・高松間のフェリーで勤務していた際「飛鳥II」を見かけ、日本最大の客船で働いてみたいと思ったのが転職のきっかけ。休暇中は飼い猫と遊んだり、料理などの家事を担当。得意料理はロールキャベツ。

photographs by Kazuhisa Natori

ます。航行スケジュールや海域によっては全てを造水でまかなうことができないので、岸壁での給水（補水）も必要になります。船内に水が貯められる清水タンクは1800トン。クルーズ中に水不足などと

なども考慮して計画的に水の管理を行っています。
明るくきらめく照明、そして蛇口を開けばきれいなお水が流れます。当たり前と言えば当たり前のことです
が、電気と水は客船の生命線です。お客様に快適にお過ごしいただくため、エンジンの音と熱気に包まれて、約20人の機関士達が今日も頑に汗しながらがんばっています。



今日の調子はどうかな?
造水器のメンテナンスは欠かせません

三等機関士

N. Ikemoto

造水器を担当しています。フィルターが詰まらないように、定期的にメンテナンスをしたり薬品洗浄を行っています。仕事に対する責任は常に感じています。メンテナンスから復旧させるときに手間取ると造水量にも影響してしまうので焦ります。同じ機械でも1台1台個性があるので、調子よく動いてくれるように愛情を込めて整備しています。

Profile

2024年から「飛鳥II」に乗船。前職の神戸・高松間のフェリーで勤務していた際「飛鳥II」を見かけ、日本最大の客船で働いてみたいと思ったのが転職のきっかけ。休暇中は飼い猫と遊んだり、料理などの家事を担当。得意料理はロールキャベツ。

photographs by Kazuhisa Natori

ます。航行スケジュールや海域によっては全てを造水でまかなうことができないので、岸壁での給水（補水）も必要になります。船内に水が貯められる清水タンクは1800トン。クルーズ中に水不足などと

なども考慮して計画的に水の管理を行っています。
明るくきらめく照明、そして蛇口を開けばきれいなお水が流れます。当たり前と言えば当たり前のことです
が、電気と水は客船の生命線です。お客様に快適にお過ごしいただくため、エンジンの音と熱気に包まれて、約20人の機関士達が今日も頑に汗しながらがんばっています。



今日の調子はどうかな?
造水器のメンテナンスは欠かせません

三等機関士

N. Ikemoto

造水器を担当しています。フィルターが詰まらないように、定期的にメンテナンスをしたり薬品洗浄を行っています。仕事に対する責任は常に感じています。メンテナンスから復旧させるときに手間取ると造水量にも影響してしまうので焦ります。同じ機械でも1台1台個性があるので、調子よく動いてくれるように愛情を込めて整備しています。

Profile

2024年から「飛鳥II」に乗船。前職の神戸・高松間のフェリーで勤務していた際「飛鳥II」を見かけ、日本最大の客船で働いてみたいと思ったのが転職のきっかけ。休暇中は飼い猫と遊んだり、料理などの家事を担当。得意料理はロールキャベツ。

photographs by Kazuhisa Natori

ます。航行スケジュールや海域によっては全てを造水でまかなうことができないので、岸壁での給水（補水）も必要になります。船内に水が貯められる清水タンクは1800トン。クルーズ中に水不足などと

なども考慮して計画的に水の管理を行っています。
明るくきらめく照明、そして蛇口を開けばきれいなお水が流れます。当たり前と言えば当たり前のことです
が、電気と水は客船の生命線です。お客様に快適にお過ごしいただくため、エンジンの音と熱気に包まれて、約20人の機関士達が今日も頑に汗しながらがんばっています。



今日の調子はどうかな?
造水器のメンテナンスは欠かせません

三等機関士

N. Ikemoto

造水器を担当しています。フィルターが詰まらないように、定期的にメンテナンスをしたり薬品洗浄を行っています。仕事に対する責任は常に感じています。メンテナンスから復旧させるときに手間取ると造水量にも影響してしまうので焦ります。同じ機械でも1台1台個性があるので、調子よく動いてくれるように愛情を込めて整備しています。

Profile

2024年から「飛鳥II」に乗船。前職の神戸・高松間のフェリーで勤務していた際「飛鳥II」を見かけ、日本最大の客船で働いてみたいと思ったのが転職のきっかけ。休暇中は飼い猫と遊んだり、料理などの家事を担当。得意料理はロールキャベツ。

photographs by Kazuhisa Natori

ます。航行スケジュールや海域によっては全てを造水でまかなうことができないので、岸壁での給水（補水）も必要になります。船内に水が貯められる清水タンクは18

Maiden voyage

飛鳥 III
初航海へのカウントダウン
夢はまもなく、
あなたと海へ

20th July 2025



初代「飛鳥」から「飛鳥II」へ。
お客様とともに数多の海を航り、
日本のクルーズ文化を育み進化させてきた
飛鳥クルーズ。
そして、新たな時代のクルーズライフの幕を
「飛鳥III」が開く時が来ました。

ASUKA III

ドイツ北部の街、
パペンブルグのマイヤー ベルフトで建造され、
日々、かたちになっていく「飛鳥III」。
“夢のゆりかご”から便りが届く度に
胸ときめかせたのは、
会員の皆様も私たちも同様でした。
待ちわびた想いはひとつになって。夢はまもなく、あなたと海へ。
「飛鳥III」就航へのカウントダウンが始まりました。

2025年7月20日
就航セレモニーが
開催されます!

- 7月20日「飛鳥III」の就航をお祝いするセレモニーが横浜
大さん橋国際客船ターミナルで開催されます。花束贈呈、音
楽隊の演奏、バルーンリリース、
消防艇による放水など華やかに
「飛鳥III」を歓迎します。ぜひ、
皆様お誘いあわせの上お越しく
ださい。



2024年4月
「飛鳥II」世界一周出港セレモニーより

飛鳥Ⅲ エピソードゼロ

構想から10年を経て、「飛鳥Ⅲ」として結実した夢。その魅力の背景を語ります。

多様な文化の ハーモニーが叶えた 上質な寛ぎの空間

Y.Toshimori
新造船準備室長



世界が認めた「アスカバルコニー」の居住性の高さ

地球に優しい技術は クルーズの新たな可能性を 拓く技術でもある



プロジェクト準備室
特命事項担当技師長

ドイツの造船所内に
サイトオフィスを開設



私は約10年前、新造船プロジェクトの初期の計画段階から技術として参加し、2023年5月にドイツのマイヤーベルフト造船所内にサイトオフィスを開設し、駐在しました。

日本郵船グループが新造客船を建造するのは、2003年のクリスタル・セレニティ以来で、その後の約10年、客船に注がれる技術は時代の求めに応じてかなり進化したと感じます。

「飛鳥Ⅲ」は地球に優しいエコシップを目指しました。燃料に使われるLNG（液化天然ガス）はCO₂や窒素酸化物の排出量が少ないエコな燃料です。このLNG燃料で発電をして、推進装置のモーターと船全体で使う電力をまかないます。LNGは、マイナス160度程度の液体ですが、本船でも、この極低温のまま貯蔵タンクで貯蔵し、エンジンやボイラーで燃料として使用する際は常温程度まで温めて気化させて使用します。極低温のLNGですので、貯蔵タンクはこの極低温でも破壊されない特殊な金属を使用し、また外気とは大きな温度差があるので、タンク内のLNGが急激な沸騰等を起こさないように貯蔵タンクは真空断熱構造にしました。また新たな技術として搭載されたのがD.P.S.（ダイナミック・ポジショニング・システム）。船を洋上のある一点に留めておける制御装置で、同時に船の方位も好きな方向に留めさせることも可能です。洋上で船は推進力を止めると海流や風波といった外力でその場に留まることができません。留めるためには錨を降ろすのですが、水深が深かつたり海底に珊瑚などがあれば使えません。D.P.S.はそんな場所でも威力を發揮。新たな寄港地を訪れることが可能になります。その場で船の向きを変えられるので、例えば人気の洋上花火では、常にベストな位置に船を回頭できたりもします。

このD.P.S.と連携でき、その能力を生かすのに相性の良いPOD推進装置を中心とした推進装置として採用しました。船尾に2基装備し、それぞれプロペラの方向を360度どの方向にも向けることができます。近年、世界の大型客船のほとんどがこのPOD推進を採用していますが、その理由は静粛性と推進性能の良さ。従来のように機関室からプロペラまでをシャフトでつなぐ必要がなく、プロペラを比較的離れた場所に独立して付けられるので振動や騒音が抑えられます。また、POD推進に最適な船体設計ができるので、推進性能が高く燃費性能の優れた工船になります。

さらにIT設備も飛躍的に充実しましたのでワーケーションもお楽しみいただけることでしょう。



左／POD推進装置

右／LNG燃料格納タンクの設置

「飛鳥Ⅲ」の 食器に込められた ストーリー

ノブレス

「飛鳥Ⅲ」のシグネチャーレストラン「ノブレス」で使われる食器の多くが「マイセン」。1710年、現在のドイツ・ザクセン州で誕生したヨーロッパ最古の硬質磁器ブランドです。採用されたのは「ブルーオニオン」という伝統的な柄や、「波の戯れ」という海を感じさせるモダンなシリーズ。伝統とモダンが融合したフランス料理を提供する「ノブレス」のコンセプトとは競合もあります。「飛鳥Ⅲ」もまた、ドイツで誕生した客船という共通点も「マイセン」を選んだ理由です。



「ブルーオニオン」
「波の戯れ」

アルマーレ

その日の厳選食材から、その時々の気分にぴったり寄り添う一皿を選ぶ。大人の遊び心をくすぐるイタリア料理のレストラン「アルマーレ」の美食を彩るのは、イタリアの美意識とクラフトマンシップを受け継ぐ名窯「ジノリ1735」の器たち。今回採用したのは、パロック様式のレリーフが特徴の「ベッキオジノリホワイト」や長方形のリングを鎖のようにつなげた装飾がエレガントな「カテーネ」。船旅を華やかに演出します。



「ベッキオジノリホワイト」



左／引き出しにも工夫
右／「」のマークがナイトライトのボタン
導してくれ
る照明で
す。ベッド
のドアを開
けるとそこ
もうすら
光ってトイ
うつすらと
光り、浴室
の下が
ひとつ、「」
のボタンを
押すとキッ
チュニッ
トの下が
たらソファを置くところを椅子2
脚にしたのは、ちょっと動かせば
お部屋でお食事が快適にできる工
夫。備え付けの引き出しの底には、
クッション素材を敷くことで、メ
ガネなどケースに入れずにポンと
置けたり。住み心地を高める
ちょっとした工夫が随所に。ぜひ
実現したかったのがナイトライ
ト。夜、同室の人を起こさずに、
自分自身も眩しくなくトイレに誘
れまで誘導するという仕組みです。

ここでは「アスカバルコニー」を紹介しましたが、他のどの客
室も国を超えた客船のスペシャリ
ストたち、そして郵船クルーズの
30余年の経験が落とし込まれた居
住性の高い空間になっています。
どうぞご期待ください。

Casino Monte Carlo



普段はあまり目にすることのない
カジノの装飾や調度品。

そこかしこに“ちょっと気取った大人の遊び”が漂う。
「飛鳥II」のクルーズ時間を華やかに彩る、
モンテカルロの美しいかたちをご紹介します。

飛鳥のいち

Collection 10

「飛鳥II」には
さまざまなお美が、
さりげなく
息づいています。
その背景にある
ストーリーを知れば
確かめたくなる
はずです。



ルーレット・テーブルは
「飛鳥II」がデザインのモチーフ
木目が美しいルーレット盤には
熱い視線が集まります。

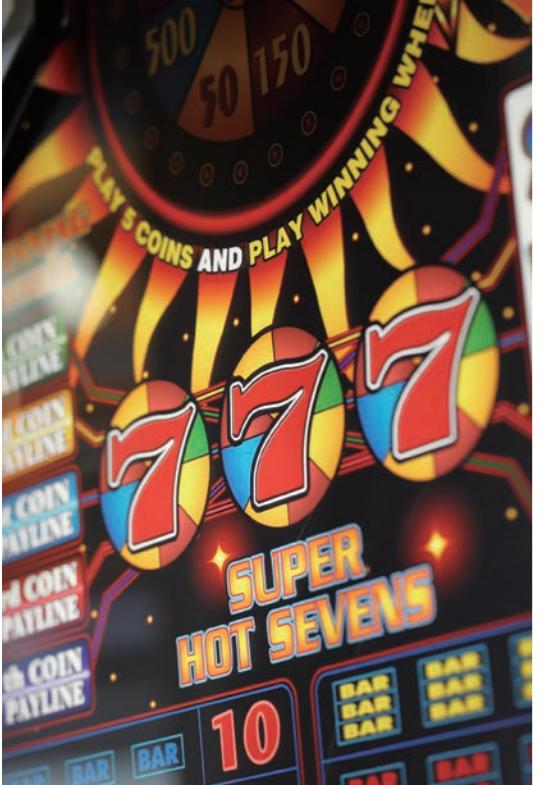
Roulette ルーレット



カラフルなチップはオリジナルデザイン。
より大きな数字をゲットすれば
興奮も最高潮!

Photographs by Kazuhisa Natori, Taishi Sakamoto

チップやコインの
購入額に応じて
記念品をプレゼント。



Sal

スロットマシン

お気軽に
カジノディーラー
Y. Tanimura

どうぞ、



Black Jack

ブラックジャック

アシスタント
パーサー(取材時)

L. Okuda



港地で下船できれば必ず水族館に出かける程イルカ好きの

私。中でもいちおしは「いおワールド

かごしま水族館」です。ここはイルカ

との距離が近いのが魅力。イルカの

ショーや人気ですが、私はそのプールの

地下部分にあたる大水槽に直行しま

す。イルカが水中で泡を出したり、そ

れを噛みぶして遊んだり、観客に

寄ってきてくれて、耳をますますとイル

カが出する音を聞くことができます。

そして珍しいのが、鹿児島湾にうな

がつた屋外の水路にイルカが出てくる

こと。自由に泳いだり、飛び跳ねたり、

水路の中にいる生き物を追いかけた

り。伸び伸びと楽しそうに泳いでいま

す。水族館の外なのでここは無料ゾー

ン。犬のお散歩で通りかかった人も興

味津々です。ワンちゃんがイルカを見

て尻尾を振っていました。

イルカを見て興味を持たれ

たお客様は多いと思います。そのイル

カをもつと間近に楽しむならココ。私

のいちおしです。

「いおワールドかごしま水族館」

鹿児島市本港新町3番地1

マリンポートかごしま水族館

は「飛鳥II」が接岸する

で約30分。桜島に渡るフェリー

街に立ち寄り名物のかき氷「白

熊」を味わい、お土産に「か

るかん」を購入してミッショ

ン完了しました!

「いおワールドかごしま水族館」

取材班は帰り天文館繁華

街に立ち寄り名物のかき氷「白

熊」を味わい、お土産に「か

るかん」を購入してミッショ

ン完了しました!

みました

鹿児島



「いおワールドかごしま水族館」



「いおワールドかごしま水族館」のイルカたちは伸び伸び楽しそう



取材日: 2024年9月27日



いろいろな国や街の 景色を眺めながら どこまでも 走れそうな気がする

歩いて、走って
デッキを回れば
「飛鳥II」も世界を回る

on



チーフパーサー

チーフパーサー/
クルーズディレクター Y. Masuda

東京都出身。初代「飛鳥」にクルーズスタッフとして乗船。2008年にアシスタントクルーズディレクター、2015年にクルーズディレクターに就任。2024年からチーフパーサーと兼務に。大学時代はヨットと合氣道をしていました。球技は苦手だが、身体を動かすのが好きで、走るのも好き。

2024年9月
「爽秋の瀬戸内
九州・松山クルーズ」中の
鹿児島港で

OFF



ランナー

Q1. 普段のお仕事は?

チーフパーサーとしてお客様の入出港の手続きを始め、セキュリティ業務の監督、アスカディエイラーの編集長や船内放送も担当しています。エンターテイメント部門の仕事が長かったので「あれなんでここに?」と、お客様にびっくりされることが多いです。

Q2. いつ走っていますか?

時間は特に決めていません。チーフパーサーになってからは寄港中の業務が多いので、終日航海日にプロムナードデッキを走ることが多いです。時間があれば、今日のように寄港地で走ることもあります。だいたい1キロ5分のペースで10キロくらい走ります。



集めているドラムスティック

Q3. 走っているときは何を考えていますか?

音楽を聴いたりして何も考えずに走っています。時々何か迷っていることがあっても、走っているうちにああこうすれば良いのかと気がつくことがあります。走っているおかげで頭が整理されるようなことがあるのかもしれないですね。

Q4. 休暇中も走っていますか?

走っています。去年はマザー牧場の20キロのトレイルラン大会に出ました。山ではないけれど、牧場のアップダウンがあって辛かったです。フランスにワインを飲みながら走る「メドック・マラソン」という大会があるので、いつか出場してみたいですね。

雨宮 弥太郎

元禄3年から「雨端硯」の伝統を継ぐ
名家の13代目として硯を作る、雨宮弥太郎さん。

「硯は伝統を礎とした現代彫刻」という
想いを現した創作活動に対し第2回日本工芸会賞
飛鳥クルーズ賞が贈られました。

伝統工芸でありながら

現代美術でもある

それが私の硯のありよう

雨煙硯は初代雨宮孫右衛門が、元禄3年に身延山参詣途中に雨煙の河原で黒一色の石を見つけ、それを硯にしたことが始まりと伝えられています。明治期に中村正直氏に名を賜り、その後、当家は「雨端硯」を号しています。

私は子供の頃からものづくりが好きで芸術への憧れが強く、祖父や父も東京芸術大学で学んでいたことから私も自然な流れで彫刻科に入学しました。若い頃は現代美術に傾倒していましたが、やはり硯の家だということで硯も創作。今思えば若気の至りで、ファインアートと工芸という両者は全く別物で、現代彫刻を作っている自分と硯を作っています。自分は別者と分けていました。ところが自分なりの創作を続けていくうちに、硯というのは墨をする道具、というだけではなく、突き詰めていければ伝統工芸でありながら現代美術でもあるような造形ができるのではないか、と思い至ったわけです。

設計図があるわけではなく

原石の状態とイメージを

共鳴させていく

硯に使う雨煙の石は堆積岩なんですが、生成する時に

長石や雲母といった微粒子が発生します。それが均一に岩石の中にある状態が良石の条件です。触った感じは滑らかですが、顕微鏡で見ると微粒子が立っていて墨を囲みます。

しかも、使い続けても摩耗が少ないのが雨煙の石です。創作工程としては、まず上下を削って平な板状に。次に求められる形に外側を切断し、ノミで硯の陸や海を掘ります。

その後、砥石を使って細かい形を決めていく。



Yataro Amemiya

見た人に何かいい影響を与えてくれるというのが、一番いい作品のありかただと思っています。

禅における石庭のようなく豊かにする精神的なオブジェとして

硯は黒色ですから、伝統工芸の中では地味な存在です。けれども硯は墨をするという用途を越えて、墨をするうちに心を鎮め、自然の悠久のリズムに心を開いていくための「精神の器」として重要な役割を担っています。硯というのにはいろんなあり方があって、硯本来の用途として使いやすいものも作っていますが、作品として作っているものは精神的なオブジェとしての彫刻作品だと考えています。それは「禅」の「石庭」と同じようなものと言えるかもしれません。ご自宅に石庭を設けることは難しくても、硯なら自分の特別な場所に置き、時々眺めていただければ俗世を忘れ、清らかな心になれるのではないかでしょうか。

「飛鳥II」船内でご覧いただける作品は、「環池硯」。池が回っている硯という意味です。シャープで要素を減らしたシンプルな造形という自分のスタイルを確立した頃の作品です。賞をいただいたことはとても光栄なことですし、「飛鳥II」に乗船されるお客様が、ふだんあまり目にされない「精神の器」としての硯に接していただけることを何よりうれしく思っています。



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

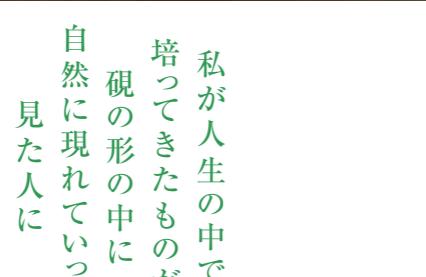
Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

Vol.07



「環池硯」

山 梨 獅 池 砯

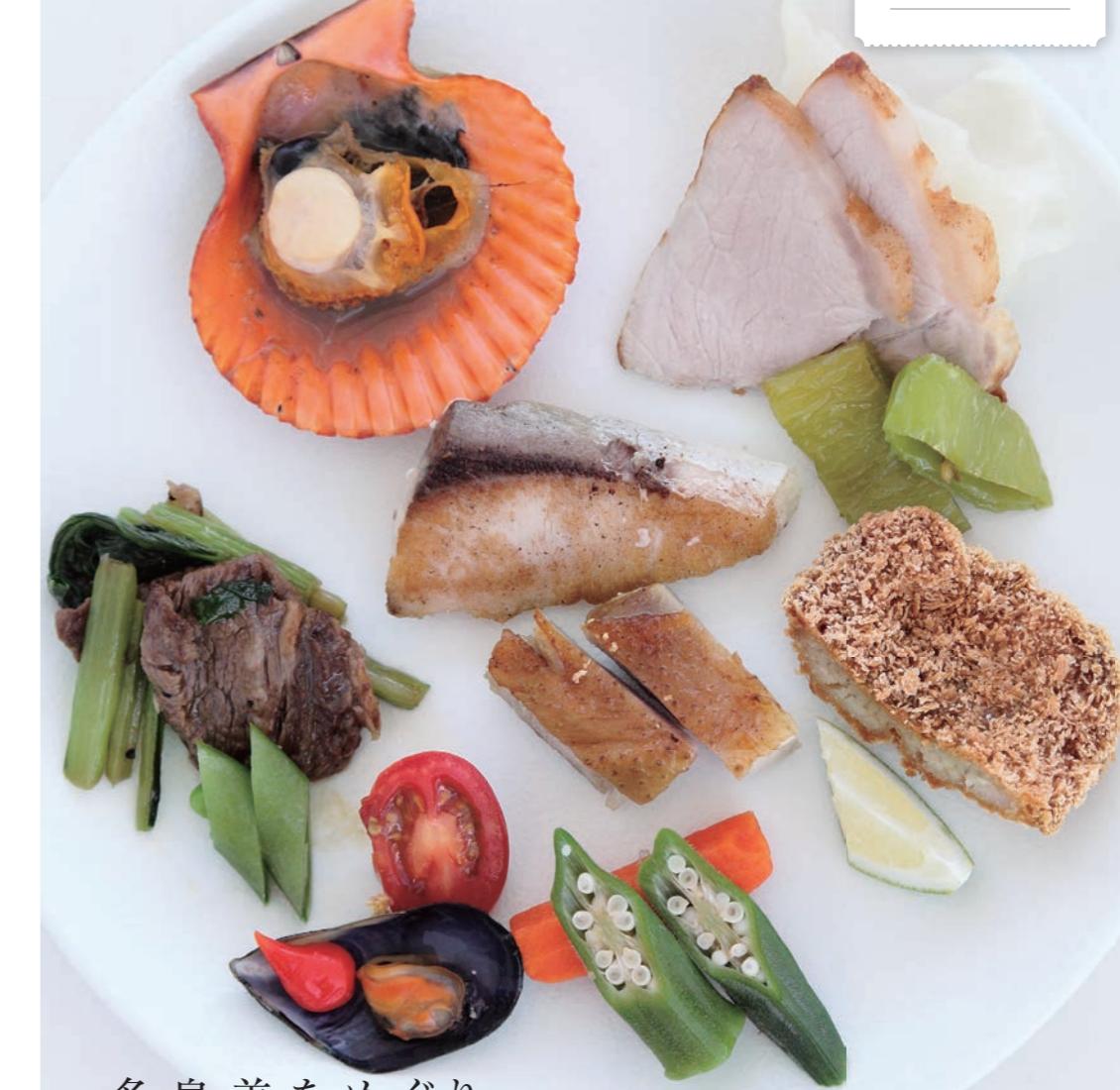
Vol.07



「

瀬戸内や四国の旬の食材を
ふんだんに取り入れたビュッフェは、
多種多彩のにぎやかさ。
あれもこれもと欲張ってしまう!

瀬戸内各地の味自慢を
ビュッフェで
食べ比べ



多島美をめぐり
美味に
出会う

瀬戸内ビュッフェ

パンケーキ
小豆島ハチミツ添え



クレープ
広島ネーブルジャム添え



フレンチトースト
広島ネーブルジャム添え



総料理長
J.Taki

朝 松山を出港した「飛鳥Ⅱ」は島々の景色が美しい瀬戸内海のエリアに入り、因島大橋(三原瀬戸)方向へと航海します。この多島美を航るタイミングで昼食の「瀬戸内ビュッフェ」をお楽しみいただくという趣向です。瀬戸内で採れた旬の海産物、育てられた食材をこの日のために集め、お料理に仕立ててビュッフェに。目にも美しいカラフルなヒオウギ貝や、オリーブを与えて養殖された小豆島のオリーブハマチといった海の幸。山の幸も、広島の瀬戸内六穀豚やさしゆりポーク、香川のオリーブ地鶏、長州鶏、秋に楽しめる愛媛の早生みかん日南1号、広島・世羅の豊水梨などあげればきりがありません。甘味としては、ご存じ広島のもみじ饅頭、岡山のきび団子、愛媛の一六タルトもご用意しました。穏やかな瀬戸内海、美しい島々を眺めながらこの地が育んだ美味しいものを召し上がっていただく。まさに「飛鳥Ⅱ」ならではの思い出に残るランチビュッフェだといえるでしょう。



ビュッフェライン
は“多島美”
のような賑わい



この地の食材が
目にも鮮やかな
お料理に



おまかせデスクの笑顔さん ⑪



太平洋上での感動のランデブー!
「飛鳥Ⅲ」との「遭遇」は
2人の船長の巧みな「仕業」だった

5月初め、「飛鳥Ⅱ」で航く最後の世界一周クルーズの途中、ドイツの造船所を出て日本に向かう途上の「飛鳥Ⅲ」との「遭遇」は、お客様の感動を呼ぶ大きな出来事でしたが、もちろん遭遇とは真逆で、いかにしたらお客様に喜んでもらえる感動的なサ

プライズになるか、「飛鳥Ⅱ」と「飛鳥Ⅲ」それぞれの船長が綿密に打ち合わせをし、内密を押し通した「仕業」でした。

「飛鳥Ⅱ」の渡辺キャプテンはいつも冷静沈着で、ボーカルフェイストは得意なところ。一方、「飛鳥Ⅲ」は皆様ご存知、小久江

キャプテンが初代船長ですが、かつて「飛鳥Ⅱ」2018年世界一周クルーズで予定の航路から大きく外れ大西洋上の絶海の孤島、セントヘレナ島へ船を進めサプライズを大成功させた、サービス精神旺盛な船長!!

その2人がタッグを組んだのですが、先回りをしてセントヘレナの島影に隠れていた? 「飛鳥Ⅲ」が、遙か遠くに船体を見せ始めた時の感動は、どれ程のものだった事でしょう。お互いにじわじわと接近しエールを交わし合える

Cruise Desk

クルーズデスクから

クルーズコーディネーター

K.Egashira



29

距離にまで近づいた時には、お客様とクルー達の喜びは最高潮に達したはずです。

「飛鳥Ⅱ」が世界一周クルーズから横浜に帰着する日は、横浜

大桟橋で「飛鳥Ⅲ」が「飛鳥Ⅱ」を出迎え、その日に「飛鳥Ⅲ」の命

名式が執り行われます。実は、

「飛鳥Ⅲ」は一足早くヨーロッパ

で、アマデア(初代「飛鳥」)とも

ランデブーを果たしたと言いま

す。いつの日か3船が横浜で並ぶ

日を夢見て、まずは「飛鳥Ⅱ」と「飛鳥Ⅲ」が初めて横浜で並ぶ

歴史的な光景にご期待ください。

PICK UP!

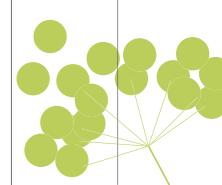
今回のオリジナルジュエリーは、波しぶきのような船旅を感じさせるモチーフをデザインに取り入れました。普段の生活でも身につけていただきやすいですし、ジュエリーを通じて常に海や船と繋がっていただけたら良いなと思っています。

商品開発した中で私の一番のお気に入りはアコヤパールの指輪です。船上では指輪のサイズ調整ができない、お買い上げいただいたまぐに身につけられませんでした。ところが、これはリングが閉閉式なのでフリーサイズなのです。サプライズのプレゼントでも大丈夫です。

1年以上の制作期間を経て生みられたオリジナルジュエリー、波しぶきをやわらかに表現したオーダーメイドのフレームに大粒のマーガレットを入れ、まわりにはダイヤモンドをあしらいました。

珠は同じように見えてそれぞれ個性があるので、出会いも一期一会。ぜひ実際に手にとつて見ていただきたいです。

ておすすめできる素材と技術でオリジナルジュエリーを制作したいという願いから、つぎに辿り着いたのが山梨県でした。古くから水晶の産地である山梨では、水晶の研磨技術を応用した金属加工で有名です。きらめく光の高さフルネックレスが実現できました。



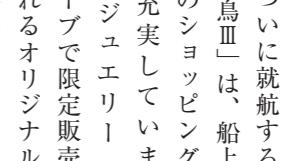
左／マベパール波のブローチ
右／マベパール波のネックレス



左／マベパールネックレス
右／マベパールイヤリング



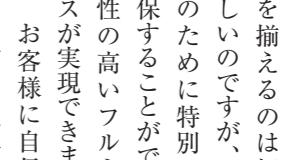
左／アコヤパール
飛鳥Ⅲピンブローチ
右／アコヤパールリング



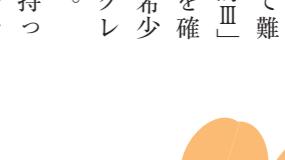
左／アコヤパール
飛鳥Ⅲピンブローチ
右／アコヤパールリング



左／アコヤパール
飛鳥Ⅲピンブローチ
右／アコヤパールリング



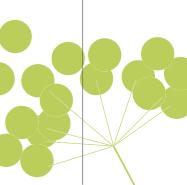
左／アコヤパール
飛鳥Ⅲピンブローチ
右／アコヤパールリング



左／アコヤパール
飛鳥Ⅲピンブローチ
右／アコヤパールリング

「飛鳥Ⅲ」のオリジナルジュエリー

ASUKA III NEWS



28

ついに就航する「飛鳥Ⅲ」は、船上でのショッピングも充実しています。ジュエリーで限定販売されるオリジナル



「飛鳥Ⅲ」ジュエリー オープ



29

読者プレゼント



オリジナル今治バスタオルを10名様に

船内でも使用しているジャガード織の吸水性抜群なオリジナル今治バスタオル。船内用品との違いとして飛鳥クルーズロゴの刺しゅうを施しました。

宛て先

〒220-8147
横浜市西区みなとみらい2-2-1 横浜ランドマークタワー47階 / My ASUKA CLUB 事務局「ASUKA」編集室

●締切/2025年8月8日
ハガキには「バスタオル希望」と書き、お客様の
①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号
⑥本誌「ASUKA」に関するご意見、ご感想を明記してください。(お書きいただいたご意見・ご感想は本誌に掲載させていただくことがあります)

※発表は発送をもってかえさせていただきます。※お客さまから寄せられた個人情報は、目的以外には使用しません。



こちらからも応募できます

<https://myac.asukacruise.co.jp/form-entry>

My ASUKA CLUB会員の皆様へ

はじめて飛鳥クルーズにご乗船された会員様も、何度もご乗船いただいているお客様も、いつも飛鳥クルーズをご愛顧いただきありがとうございます。

クルーズライフをお楽しみいただいた後、ご自宅でお過ごしの間もクラブ誌「ASUKA」の誌面を通して、飛鳥クルーズの魅力の他、普段目にすることが少ない船長・乗組員・社員の活動、エンターテイメント・工芸のパックステージなど、飛鳥クルーズに関わる様々なことに触れていただき、改めて御礼を申し上げます。

さて、まもなく「飛鳥Ⅲ」が就航し、2隻で運航することになります。「飛鳥Ⅱ」、「飛鳥Ⅲ」にはそれぞれの良さや楽しみ方があります。これら客船の魅力をお伝えすることにとどまらず、皆様の生活スタイルや価値観がより豊かなものになることをを目指し、次回112号より誌面をリニューアルいたします。

クラブ誌「ASUKA」の誌面を通じて、旅・食・ファッションなど、多彩なテーマで、知的好奇心を満たし、皆様の人生をよりDRESS UPすることを目指してまいります。

なお、My ASUKA CLUBサイトではデジタルコンテンツとして私の少しマニアックなコラムなども紹介しています。こちらも是非ログインしてご覧ください。

クラブ誌「ASUKA」とともに、My ASUKA CLUBを引き続きご愛顧くださいますよう、よろしくお願ひいたします。

My ASUKA CLUB会員

中村大輔

My ASUKA CLUBへのログインはこちらから
<https://myac.asukacruise.co.jp/>

優秀クルーをご紹介します

CREW AWARD

2024年度第3四半期



優秀賞
Naris
(營繕部)
Adrian
(テクニカル)



優秀賞
Al
(ハウスキーピング)
Ces
(ハウスキーピング)

2024年度第4四半期



優秀賞
Ley
(機関部)
N. Tamura
(アシstantバーサー)



優秀賞
Chloe
(プロダクションマネージャー)
Reyshiel
(ハウスキーピング)

2024年度年間優秀クルー



Joshua
(甲板部)
Adrian
(テクニカル)

My ASUKA CLUBからのお知らせ

Club Information

Information

1

「飛鳥Ⅲ」の記者発表を開催 飛鳥クルーズは2隻運航へ!

2月20日、34年ぶりとなる郵船クルーズの新造客船「飛鳥Ⅲ」の記者発表が行われました。

会場では、バトラーサービス付きのペントハウスクラスを含む3つの客室クラスや、選べる6つのレストラン、そして展望大浴場や露天風呂などの魅力的な施設の数々を紹介。飛鳥クルーズアンバサダーの小山薰堂さんが紹介する動画も



公開されました。(飛鳥クルーズ公式 You Tubeからご覧いただけます)

船内には日本を代表する作家によるアートが飾られ、船旅の中で本物の芸術に親しめる空間であること。さらに、「A3エクスペリエンス」と名付けられた体験型の特別な寄港地観光ツアーが企画されるていることなども、発表されました。

「飛鳥Ⅲ」は7月20日に母港・横浜で就航セレモニーを行った後、Maiden Voyage(初航海)へと出航します。この初航海を含む17本そして2026年1月



Information

2

「飛鳥Ⅲ」の入港記念盾ができました

初入港の際に贈呈される記念盾をご存じでしょうか。岸壁でセレモニーをご覧になられたことのある方もいらっしゃると思います。その時に船長が贈呈するのが記念盾です。

今回新たに制作された「飛鳥Ⅲ」の記念盾は、Kouyamaさん(元クルーズスタッフ)がデザインしました。盾の外枠はウォルナット材で、ブランドカラーである深緑(こきはなだ)色のスチールプレートにゴールドで紋様が浮き出しプリントされています。

「新しさの中にも伝統や文化、歴史を感じさせるモチーフを使いたいと考え、日本文化が花開いた飛鳥時代の唐草

模様をデザインに取り入れました」と、Kouyamaさん。

「飛鳥Ⅲ」はこれから初寄港が続きます。ぜひ一緒に初寄港をお祝いしてください。



M. Kouyama
コンテンツクリークとして
「飛鳥Ⅲ」に乗船する